

この方が神の子

ヨハネの福音書 1章 29-34節

はじめに

月の第一週の説教は、「ヨハネの福音書」からお話することになっています。今日の聖書箇所は、「**その翌日**」という言葉から始まります。「その翌日」というのは、バプテスマのヨハネが、エルサレムから遣わされて来た祭司やレビ人たちと対話をした、「その翌日」です。そこでヨハネは、自分はキリストでもない、エリヤでもない、あの預言者でもない、自分は「預言者イザヤが言った、『**主の道をまっすぐにせよ、と荒野で叫ぶ者の声**』』であると、自分が何者であるかを証しましたのです。

ヨハネの福音書の1章は、「その翌日」という言葉が繰り返されています。今日の聖書箇所29節、そして35節、43節、そして2:1には「**それから三日目に**」とあります。つまり、ヨハネの福音書の1章から2章の始めにかけて、七日間の記録が日記のように書かれているのです。

なぜこのように七日間の記録が書かれているのかというと、おそらくヨハネの福音書の1章は、旧約聖書の一番初めの創世記の1章を意識しているからだと思います。ヨハネの福音書の1章は、「**初めにことばがあった**」(1:1)と語り、すべての人を照らすまことの光について書かれ、七日間の出来事が書かれていきます。同じように創世記の1章も、「**はじめに神が天と地を創造された**」(創世記 1:1)と語り、光の創造が書かれ、創造の七日間の出来事が書かれていきます。このように、ヨハネの福音書の1章と創世記の1章を比較しながら読むと、ヨハネの福音書はとても興味深い書物となっていきます。

1. 私自身もこの方を知りませんでした。

さて、バプテスマのヨハネは、1:7にあるように、イエス様を証しするために、神様に遣わされた人でした。しかし、今日の聖書箇所31、33節には、「**私自身もこの方を知りませんでした**」と繰り返されているように、ヨハネ自身も、もともとはイエス様を知らなかったのです。今日の聖書箇所には、ヨハネが、どのようにイエス様を知るようになったのか、そしてイエス様をどのような方として知るようになったのかが証されています。

ヨハネは、「バプテスマのヨハネ」と呼ばれていますが、そもそもなぜ人々に、バプテスマ、つまり洗礼を受けるようになったのでしょうか。

ヨハネが人々に洗礼を受けるようになった理由の一つは、33節にあります。「**私自身もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを受けるようにと私を遣わした方が、私に言われました。『御霊が、ある人の上に降って、その上にとどまるのをあなたがたが見たら、その人こそ、聖霊**

によってバプテスマを受ける者である』。ヨハネは、自分の意志で洗礼を受けるようになったのではなく、神様から「水でバプテスマを受けるように遣わされた」からこそ、洗礼を受けるようになったのです。

もう一つの理由は、31 節にあります。「**私自身もこの方を知りませんでした。しかし、私が来て水でバプテスマを受けているのは、この方がイスラエルに明らかにされるためです**」。ヨハネは、イエス様がイスラエルに明らかにされるために、洗礼を受けていたのです。ヨハネは、自分は「水でバプテスマを受けている」、「水でバプテスマを受けるように遣わされている」と、「水によるバプテスマ」ということを強調しています。それは、イエス様による「聖霊によるバプテスマ」と対比させるためです。

ヨハネが授けていた「水によるバプテスマ」は、イエス様が授ける「聖霊によるバプテスマ」を表し、証しているものであったのです。つまり、洗礼の「水」は「聖霊」を表していたのです。ヨハネは、「水によるバプテスマ」を人々に授けることによって、イエス様の「聖霊によるバプテスマ」を予め指し示し、そのことを通してイエス様を証していたのです。そして、そのようにイエス様を証しするようと、神様から遣わされていたのです。

2. 私は見ました

ヨハネも、人々に「水によるバプテスマ」を授けている時は、イエス様のことをはっきりとは知りませんでした。しかし神様から、このように言われていたのです。「**御霊が、ある人の上に降って、その上にとどまるのをあなたが見たなら、その人こそ、聖霊によってバプテスマを受ける者である**」。あなたは、ある人の上に御霊がとどまるのを見るようになる。その人こそ、聖霊によってバプテスマを受ける人である、と。

そしてある時、ヨハネはその光景を見るのです。32 節には、こうあります。「**御霊が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを私は見ました**」。ヨハネの福音書には書かれていませんが、他の福音書には、イエス様がヨルダン川に來られて、ヨハネから洗礼を受ける出来事が書かれています。その時にヨハネは、御霊が鳩のように降って、イエス様の上にとどまるのを見るのです。そして、天から「**あなたはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ**」(マルコ 1:11)という神様の声を聞くのです。だからこそヨハネは、今日の聖書箇所 34 節で、「**私はそれを見ました。それで、この方が神の子であると証しているのです**」と言うのです。

ヨハネは、はっきりと見たのです。イエス様の上に御霊が降るのを。そしてヨハネは、はっきりと聞いたのです。「あなたはわたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ」という神様の御言葉を。このようにはっきりと見聞きしたヨハネだからこそ、ヨハネはイエス様の証人として遣わされたのです。

証人とは、はっきりと見聞きした事柄を証言する人です。使徒たちも、イエス様の証人となりました。彼らは、イエス様の十字架と復活を見たからです。彼らは、イエス様の十字架と復活の目撃者、その証人となって、全世界にイエス様を証ししていったのです。

一方バプテスマのヨハネは、イエス様の上に御霊が降った出来事の目撃者、証人となりま

した。そして彼は、イスラエルの人々に、イエス様こそ「聖霊によってバプテスマを受ける方」である、「神の子」である、またイエス様こそ「私にまさり、私より先におられた方」である、「世の罪を取り除く神の子羊」であると証ししていったのです。

3. 証しをしているのです

ヨハネは、イエス様の上に御霊が降った出来事を見て、イエス様のことを知りました。

(1) 私より先におられた神の子

ヨハネはまず、イエス様が「神の子」であると知りました。これは、イエス様が洗礼を受けた時に聞こえた、天からの神様の御言葉から知ったことでしょう。さらにヨハネは、30節で、『**私の後に一人の人が来られます。その方は私にまさる方です。私より先におられたからです**』と私が言ったのは、**この方のことです**』と言いました。ヨハネは、イエス様より半年前に生まれた人です。それなのに彼は、イエス様のことを「私より先におられた」と言っています。それは、ヨハネがイエス様を「神の子」と信じていたからです。

ヨハネの福音書は、1：1-3で**「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった**」

とありました。そこでは、イエス様こそ神であり、イエス様こそ世界の創造者であると宣言されています。ヨハネは、イエス様の上に御霊が降った出来事を見て、イエス様こそ、世界が造られる前から存在していた神の子であると知ったのです。

(2) 世の罪を取り除く神の子羊

第二に、29節にあるように、ヨハネはイエス様が「世の罪を取り除く神の子羊」であると知りました。子羊は、人々の罪の償いのためにささげられるいけにえです。しかしイエス様は神の子として、私たちの罪を償うために、十字架に架かり、真のいけにえとなりました。子羊のいけにえは、繰り返しささげられなければなりません。しかし神の子であるイエス様は、ただ一度だけ、十字架で御自身をささげ、私たちの罪の完全な償いを成し遂げてくださいました。

子羊のいけには、イエス様の十字架を指し示していたのです。ですから私たちはもはや、子羊をささげる必要はありません。神の子であるイエス様が、ただ一度だけ、御自身を十字架でささげ、私たちの罪の完全な贖いをしてくださったからです。

(3) 聖霊によってバプテスマを受ける者

第三に、ヨハネはイエス様が「聖霊によってバプテスマを受ける方」であると知りました。私たちが受ける洗礼は、水によるものですが、それは聖霊を与えられることを意味することでもあります。罪を悔い改めて、イエス様を信じて洗礼を受けた私たちは誰でも、聖霊を与えられているのです。パウロは、こう言いました。**「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは『アバ、父』と叫びます」**(ローマ 7:15)。聖霊を与えられた人は、神様を「アバ、父」と呼ぶことが許され、

神様の子どもとされます。私たちは、聖霊によって新しく生まれるからです。

私たちの教会では、幼児にも洗礼を授けます。幼児洗礼で注がれる水もまた、聖霊を意味しています。幼児は、洗礼の水を注がれることを通して、聖霊が与えられることを約束されているのです。幼児はやがて、聖霊によって罪を示され、イエス様への信仰が与えられ、新しく生まれることが約束されているのです。

おわりに

今日は、ヨハネの証しを学びました。ヨハネは、もともとイエス様のことを知りませんでした。しかし彼は、神様によって人々に水で洗礼を授けるようにと遣わされました。そのような中で、人々の中にイエス様もいて、イエス様に洗礼を受けた時に、御霊が天から降って、イエス様の上にとどまる姿を見たのです。そして、天から「あなたはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」という神様の御言葉を聞いたのです。その時にヨハネは、イエス様こそ、世界が造られる前から存在していた神の子であると知り、私たちの罪を完全に贖う真の子羊であると知り、私たちに聖霊を与えて、新しく神の子どもとして生まれさせてくださる方であることを知ったのです。ヨハネは、それを見聞きしたので、私たちにも証ししているのです。

私たちは、このヨハネの証しをどう受け止めるでしょうか。ヨハネの証言を真実だと信じ、それを受け入れるでしょうか。それとも、それは嘘だ、信じられないと退けるでしょうか。私たちは、ヨハネの証しだけでなく、新約聖書全体を通して、使徒たちの証しをも知っています。彼らは、イエス様の十字架と復活の目撃者であり、そのことの証人、証言者です。彼らもまた、ヨハネと同じように、新約聖書全体を通して、イエス様こそ「神の子」である、イエス様こそ私たちの罪を完全に償う救い主である、イエス様こそ聖霊によって私たちに新しくし、私たちに新しい人生を与える方であると証ししています。

私たちがもし、ヨハネや使徒たちの証言を信じて、罪を悔い改めてイエス様を信じ受け入れるなら、私たちの罪は完全に贖われ、罪の力や永遠の地獄の刑罰から救われます。そして、聖霊を与えられて、神の子どもとして受け入れられ、神様の愛と訓練、また守りと導きのもとに新しい人生を歩むことができます。

私たちは、イエス様を見たことはありません。しかし使徒ペテロは、このように言います。**「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見てはいないけれども信じており、ことばに言い尽くせない、栄えに満ちた喜びに踊っています。あなたがたが、信仰の結果であるたましいの救いを得ているからです」**(1ペテロ 1:8-9)。私たちは、イエス様を見ていなくても、愛し、信じ、救われることができます。そして私たちも心に喜びがあるなら、イエス様のことを証言することができるのです。

ヨハネは、「**自分の方にイエスが来られるのを見て**」、証ししました。イエス様はまた、世の終わりに再びこの地上に来られます。私たちが神様から求められていることは、その時まで私たちも、ヨハネと同じように、イエス様を証しし続けることではないでしょうか。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたは、バプテスマのヨハネや使徒たちに、イエス様が神の子であることを現わされました。そして彼らを通して、全世界にイエス様の救いを宣べ伝え、教会を建て上げられました。私たちは今、彼らの証しが真実であり、それを受け入れるかどうかが問われています。そして彼らと共に、イエス様が再びこの地上に来られる時まで、イエス様を証しすることが求められています。どうか、聖霊によって私たちに信仰を与え、私たちをあなたの証人として力づけてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。